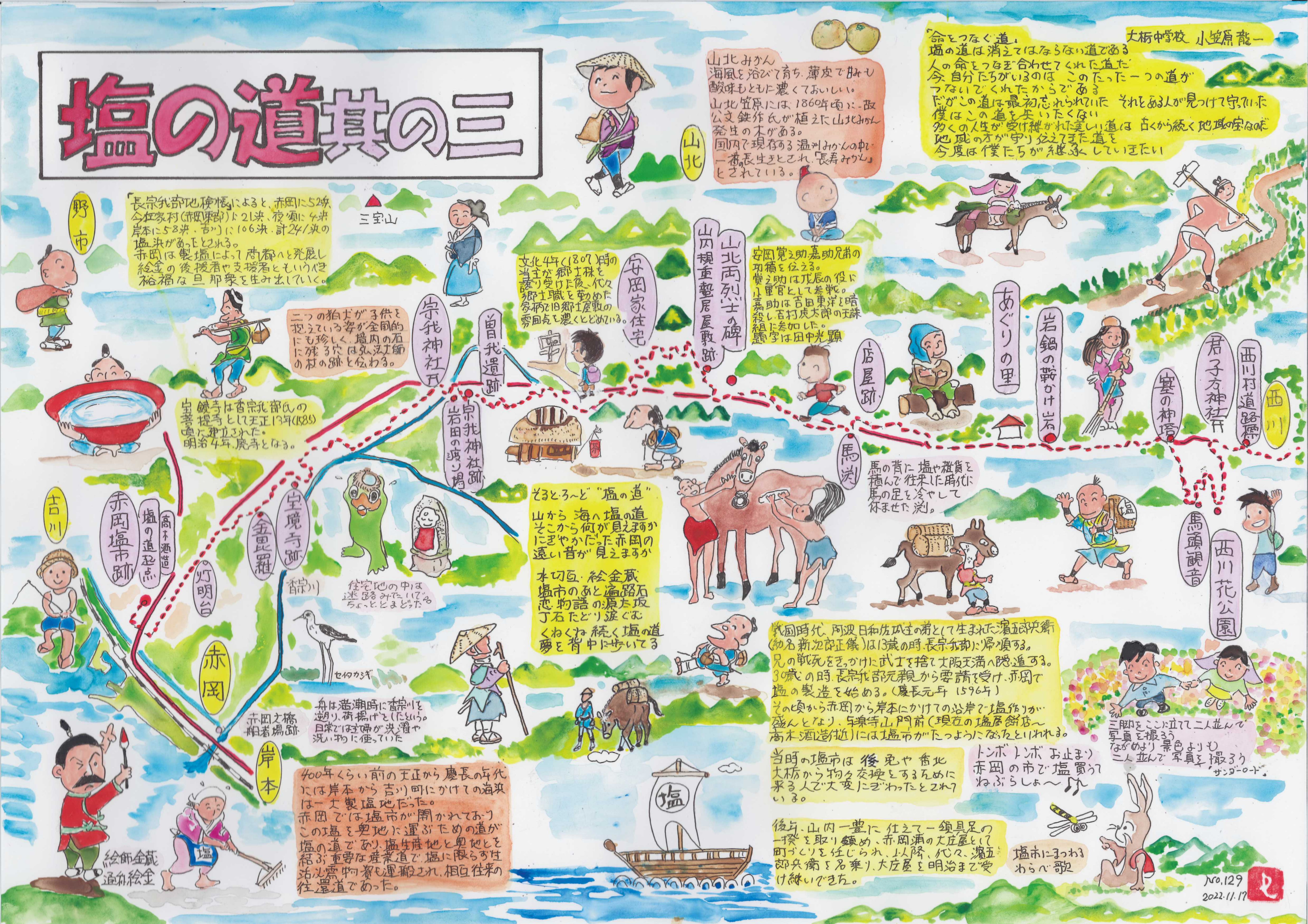
塩の道其の三

大栃中学校　小笠原龍一

「命をつなぐ道」
塩の道は消えてはならない道である
人の命をつなぎ合わせてくれた道だ
今 自分たちがいるのは　このたった一つの道が
つないでくれたからである
だがこの道は最初忘れられていた　それをある人が見つけて守っていった
僕はこの道を失いたくない
多くの人生が受け継がれた美しい道は　古くから続く地域の宝なのだ
地域の方が守り伝えてきた道を
今度は僕たちが継承していきたい


野市
三宝山
山北
吉川
赤岡塩市跡
塩の道起点
高木酒造
灯明台
金毘羅
宝境寺跡
香宗川
宗我神社
曽我遺跡
宗我神社跡 岩田の渡り場
安岡家住宅
山北両烈士の碑
山内規重塾居屋敷跡
店屋跡
馬渕
あぐりの里
岩鍋の鞍かけ岩
塞の神塔
君子方神社
西川村道路標
西川
馬頭観音
西川花公園
赤岡
岸本
赤岡之橋船着場跡
セイタカシギ
住宅地の中は迷路みたいでちょっととまどった
茶
塩
絵師金蔵
通称絵金

山北みかん
海風を浴びて育ち、薄皮で甘みも酸味もともに濃くておいしい。
山北笠原には、1860年頃に故公文鉄作氏が植えた山北みかん発生の木がある。
国内で現存する温州みかんの中で一番の長生きとされ「長寿みかん』とされている。

「長宗我部地検帳」によると、赤岡に52浜、今在家村（赤岡東部）に21浜、夜須に4浜、岸本に58浜、吉川に106浜、計241浜の塩浜があったとされる。
赤岡は製塩によって商都へと発展し絵金の後援者や支援者ともいうべき裕福な旦那衆を生み出していく。

文化4年（1807）時の当主が郷士株を譲り受けた後、代々郷士職を勤めた家柄で旧郷士屋敷の雰囲気を濃くとどめている。

安岡覚之助、嘉助兄弟の功績を伝える。
覚之助は戊辰の役に小軍官として参戦。
嘉助は吉田東洋を暗殺し、吉村虎太郎の天誅組に参加した。
題字は田中光顕

二つの狛犬が子供を抱えている姿が全国的にも珍しく、境内の石に残る穴は弘法大師の杖の跡と伝わる。

宝鏡寺は香宗我部氏の菩提寺として天正13年(1585)頃に建立された。
明治4年、廃寺となる。

馬の背に塩や雑貨を積んで往来した時代に馬の足を冷やして休ませた渕。

そるところ～ど“塩の道”

山から 海へ塩の道
そこから何が見えますか
にぎやかだった赤岡の
遠い昔が見えますか

水切瓦・絵金蔵
塩市のあと遍路石
恋物語の源太坂
丁石たどり涙ぐむ

くねくね 続く塩の道
夢を背中に歩いてる

舟は満潮時に香宗川を遡り、荷揚げをしたという。
日常では主婦が洗濯や洗い物に使っていた

400年くらい前の天正から慶長の年代には岸本から吉川町にかけての海浜は一大製塩地だった。
赤岡では塩市が開かれており、この塩を奥地に運ぶための道が塩の道であり、塩生産地と奥地とを結ぶ重要な産業道で、塩に限らず生活必需物資も運搬され、相互往来の往還道であった。

戦国時代、阿波日和佐城主の弟として生まれた濱五郎兵衛（幼名新次郎正儀）は13歳の時、長宗我部に帰順する。
兄の戦死をきっかけに武士を捨て大阪天満へ隠遁する。
30歳の時、長宗我部元親から要請を受け、赤岡で塩の製造を始める。（慶長元年 1596年）
その頃から赤岡から岸本にかけての沿岸で塩作りが盛んとなり、与楽寺山門前（現在の塩屋餅店～高木酒造付近）には塩市がたつようになったといわれる。

当時の塩市は後免や香北大栃から物々交換をするために来る人で大変にぎわったとされている。

後年、山内一豊に仕えて一領具足の一揆を取り鎮め、赤岡浦の大庄屋として町づくりを任じられ、以降、代々、濱五郎兵衛を名乗り、大庄屋を明治まで受け継いできた。

トンボトンボ お止まり
赤岡の市で 塩買うて
ねぶらしょ～♪

塩市にまつわるわらべ歌

三脚をここに立てて二人並んで
写真を撮ろう
ながめより 景色よりも
二人並んで 写真を撮ろう
「サンダーロード」

No.129
2022.11.17